

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連		有 ・ 無
<input type="checkbox"/> 有		
<input checked="" type="checkbox"/> 無		

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	市民への健康づくり情報等の提供事業								
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	健康課	係	健康推進係	評価票作成者	成人保健担当係長 二宮真由美	
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	成人・老人保健		コード	2 1 1
	項	健康			単位施策(中)	健康づくり事業を支援する環境づくり		コード	2 1 1 3
					単位施策(小)	市民への健康づくり情報等の提供		コード	2 1 1 3 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	市民が健康づくりに関心がもてる				
1-5 事務事業の内容	健康に関する情報を市民に広く周知するため、広報・回覧チラシ・ホームページに掲載する。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	健康課実施事業については、広報・回覧チラシで市民に周知した。また、ホームページにも掲載した。保健センター窓口のパンフレットも、わかりやすく置くようにした。	健康に関する情報は、マスメディアから多く流れている。その中で、個人個人が判断し、自分の健康づくりに役立てている。しかし、その一方で情報が氾濫し、判断に迷うこともあ		健康づくりのための正しい情報を市民は求めている。さらに市民が手軽に情報を得ることが出来るようさらに整備が必要。	
	平成19年度	18年度の取組みに加え、20年度のから健診体制の変更点を広報及び基本健診の結果票にも掲載した。	20年度からの医療制度改革に伴い、健診体制が変わること。また、メタボリックシンドロームなど聞きなれない新しい情報がさまざまなところで流れている。		市民は健康づくりに関心が高く、いろいろなところで情報を得ている。市民が健康について気軽に学べ体験できる環境整備が必要。	
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	朝食を必ず食べる人の割合(%)		89.0(%)	90.0(%)	食習慣の原点である朝食摂取率 【資料】ウォーキングイベントアンケート調査 マップ利用者÷アンケート回答者数 ウォーキングイベントアンケート調査

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(回)	23	25								
	直接事業費 b(千円)	1,434	931								
	人件費 c(千円)	148	157								
	合計コスト d(b+c)(千円)	1,582	1,088								
単位コスト d/a(千円)	情報提供回 当たり 70	情報提供回 当たり 44	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 広報12回 広報折込チラシ 3回 年間行事予定表1回 回覧チラシ9回 【直接事業費】(広報印刷代含まず)回覧チラシ印刷代 9回分 316,416円 折込チラシ 351,949円 年間行事予定表 262,164円 合計 930,529円 【人件費】広報原稿作成 6時間 回覧チラシ原稿作成 9時間 折込チラシ・年間行事予定表原稿作成 16時間 回覧チラシ封入作業 18時間 計49時間 3,200円×49時間=156,800円 19年度は、情報提供回数を活動実績とした。 2-4の達成度算定できない。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	86.0(%)									
	後期目標値に対する達成度(%)	95.6(%)									

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		B	A								

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	平成18年度	健康づくりに関する情報をPR媒体を通して、またあらゆる機会をとらえて普及していく工夫が求められている。	今回のアンケート調査対象群は年齢的に偏りがあり、次回には全年齢を対象とした調査が必要。	ウォーキング推進についてウォーキングイベントは市民参加者数 250人、また市民の健康づくり団体のPRの場ともなった。食生活改善推進グループへは食事バランスガイドの情報提供を実施、活動の場に生かされている。
	平成19年度	〃	事業のみの情報ではなく、食事・運動などの健康に関する情報も織り込んで市民に啓発していく必要がある。	健康課の事業を広報・回覧チラシで情報をつたえているが、全市民にはいきわたらないことがある。ホームページの掲載がタイミングよくできないものもあった。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	平成18年度	B	偏ったアンケート調査ではなく、全年齢層を対象にしたアンケートに改善する必要がある。
	平成19年度	A	継続して事業進めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
平成27年度			